

事業活動実績報告書

施設名	社会福祉法人砂原母の会 幼保連携型認定こども園すなはら	
教育理念	「一人ひとりが主役になる」 ・自然の中で全身を使い五感を育む ・赤ちゃんからお年寄りまで関わり合う生活 ・時間を忘れて遊ぶ ・ほんものの食事	
事業の区分 (5領域)	(健康) ・ (人間関係) ・ (環境) ・ (言葉) ・ (表現)	
1 事業名	園庭に昆虫や生き物をよびこむための、ピオトープづくりとグリーンコーナーづくり	
2 実施期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和 7年 3月 31日	

3 取組概要	(取組日) 令和 6年 4月1日 ~ 令和 7年 3月 31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 園庭生き物調査 毎月1~2回、1回2時間、園庭の生き物調査を実施。 調査に職員や子どもが参加し、調査後にはどのような生き物が来ていたかや、芽を出し始めた植物などの振り返りを行い、教育保育活動に活かした。 1年の終わりには実施報告書を作成し、園庭の生態系の変化を見守った。	
	(取組日) 令和 6年 4月30日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること むしむしクラブ① ・テーマ…「春の虫や春の草花で遊ぶ」 ・場所…足立区立八か村落しファミリー公園 春の虫や春の草花探しをしたり、花や葉を使って自然ビンゴで遊んだ。公園内に咲いている花や葉っぱなど、自分のお気に入りの植物を集めて楽しんだ。	
	(取組日) 令和 6年 5月 22日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること むしむしクラブ② ・テーマ…「クローバーを使った指輪やチョウチョづくり」 ・場所…西沼公園 オオバコ相撲をしたり、クローバーとカタバミの違い探しをしたり、カメムシを捕まえて観察をした。カタバミを使った10円磨きの体験では、自然の不思議さを味わった。	
	(取組日) 令和 6年 6月 20日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること むしむしクラブ③ ・テーマ…「初夏の虫とトンボを見つけよう」 ・場所…西沼公園 牛乳パックとビニール袋で作った手作りの虫網を使いながら、虫探しをした。小さな虫網だが子どもにはちょうどよいサイズで、バッタなどを捕まえることができた。	

3 取組概要	<p>(取組日) 令和 6年 7月 24日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>むしむしクラブ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「セミとセミの抜け殻を見つけよう」 ・場所…高木公園 <p>アブラゼミを見つけ、観察をしたり触る体験をした。セミやセミの抜け殻探しをした後は室内に戻り、講師が用意したセミの標本を見て、色や形の違いを発見する遊びを行った。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 8月 21日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>むしむしクラブ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「ダンゴムシ迷路」 ・場所…認定こども園すなはら園庭 <p>園庭でダンゴムシ探しをした後、空箱や厚紙などの廃材を使って、ダンゴムシ迷路を作った。迷路を進むダンゴムシを観察しながら、なぜその方向に進むのかを考え、様々な仮説を立てた。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 9月 26日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>むしむしクラブ⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「バッタやコオロギを見つけよう」 ・場所…西沼公園 <p>バッタを探す会だったが、ウスハキトンボやアゲハチョウが見つかり、手に持ってみたり観察をした。コオロギは見つけられなかったが、講師が用意したコオロギクイズを楽しんだ。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 10月 23日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>むしむしクラブ⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「葉っぱのパズルで遊んでみよう」 ・場所…西沼公園 <p>公園内を散策しながら、同じ形や色の葉を見つけ用紙に貼って遊んだ。葉っぱ一つをとっても、様々な色・形があることに気づいた。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 11月 20日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>むしむしクラブ⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「ドングリでマスカラやコマを作ろう」 ・場所…西沼公園 <p>色々なドングリを使ってマスカラやコマ作りを行った。講師の手作り紙芝居を見た後、ドングリ絵巻を見ながらどんなドングリがあるのか話を聞いた。ペットボトルにドングリを入れマスカラづくりをしたり、ドングリのコマ作りをした。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 12月 17日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>むしむしクラブ⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「冬越しする虫をさがしてみよう」 ・場所…西沼公園 <p>落ち葉の下や木の皮の裏を見て虫を探しを行った。その他にも、アキアカネも見つけ観察をした。講師が事前に捕まえた、カブトムシ、ツチイナゴ、オオカマキリなどを見て、触って観察をした。</p>	

3 取組概要	(取組日) 令和 7年 1月 27日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>むしむしクラブ⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「むしむしクラブ世界の昆虫展覧会」 ・場所…認定こども園すなはら <p>講師が作った虫の標本を飾り、観察コーナーやむしクイズコーナー、虫に触れ合うコーナーを作った。子どもたちは自分が興味を持った虫を、じっくり観察していた。</p>	
	(取組日) 令和 7年 2月 19日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>むしむしクラブ⑪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「草花の弁当箱づくり」 ・場所…認定こども園すなはら <p>園庭で草花を集め、弁当箱を作った。木の実や葉っぱをおかずに見立て、誰に食べてもらいたいかなどを考え、食べてもらう人のことを想像しながら愛情のこもった草花の弁当を作った。</p>	
	(取組日) 令和 7年 3月 11日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>むしむしクラブ⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「身近な虫と触れ合おう」 ・場所…認定こども園すなはら南棟 <p>こども園すなはらの敷地である南棟の敷地で、虫探しを行った。朽ちた木の中にある虫を探し、越冬している様子を観察した。</p>	
	(取組日) 令和 6年 5月 15日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>自然遊びワークショップ第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「オンライン観察会」 ・場所…認定こども園すなはら <p>オンライン観察会を通じて、園庭のビオトープづくりの意義を知った。ビオトープとは何なのか、生き物が集まる園庭はどのような園庭なのか、生き物との触れ合い方、自然の面白さなどを知った。</p>	
	(取組日) 令和 6年 5月 23日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>自然遊びワークショップ第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「バタフライガーデンをつくろう」 ・場所…認定こども園すなはら <p>バタフライガーデンとは何かを知り、チョウチョのための花壇づくりを行なった。生き物が生息するための重要な要素を学び、自らビオトープづくりをすることで、生き物や園庭への愛着を持つことに繋がった。</p>	
	(取組日) 令和 6年 7月 11日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>自然遊びワークショップ第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ…「かわせみの里に行こう」 ・場所…都立水元公園水元かわせみの里 <p>水元かわせみの里に、ビオトープづくりの視察に行った。かわせみの里のビオトープの取り組みを視察し、園の園庭づくりに活かすため、環境の違いや見られる生き物の変化に気づいた。</p>	

事業活動実績報告書

施設名	社会福祉法人砂原母の会 幼保連携型認定こども園すなはら
教育理念	「一人ひとりが主役になる」 ・自然の中で全身を使い五感を育む ・赤ちゃんからお年寄りまで関わり合う生活 ・時間を忘れて遊ぶ ・ほんものの食事
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	園庭に昆虫や生き物をよびこむための、ビオトープづくりとグリーンコーナーづくり
2 実施期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和 7年 3月 31日

3 取組概要	<p>(取組日) 令和 6年 9月 25日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>自然遊びワークショップ第4回 ・テーマ…「バタフライガーデンを見に行こう」 ・場所…都立東綾瀬公園 近隣の東綾瀬公園のバタフライガーデンを訪れ、どのような昆虫がバタフライガーデンを利用しているか視察し、園に飛来する生き物のイメージを膨らませた。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 11月 18日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>自然遊びワークショップ第5回 ・テーマ…「バタフライガーデンを植え替えよう」 ・場所…認定こども園すなはら 5月に植えた植物が枯れる冬前に、冬期や翌春に開花する花の移植を行い、通年で地域の昆虫が利用できるバタフライガーデンをつくった。</p>	
	<p>(取組日) 令和 7年 1月 20日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>自然遊びワークショップ第6回 ・テーマ…「ビオトープ池のかいぼりをしよう」 ・場所…認定こども園すなはら ビオトープ池の水質改善の為、コンテナ池の水を抜き、堆積した落ち葉や泥をかきだす「かいぼり」を行う。そして、どのような生き物が池を利用しているか調べた。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 5月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>ヒミツの種プロジェクト(種植え) ・テーマ…「ヒミツの種を植えてみよう」 幼児の子どもたちは、一人一つの植木鉢に自分の秘密の種を植えた。絵本「そらいろのたね」を導入に使用し、何の花かは子どもたちには伝えず、どんな花が咲くかをわくわく楽しみにしながら植えた。</p>	

3 取組概要	<p>(取組日) 令和 6年 5月～6月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>ヒミツの種プロジェクト(観察、スケッチ)</p> <p>・テーマ…「ヒミツの種の葉っぱのスケッチ」</p> <p>ヒミツの種から芽が出て二葉になり、葉が育った。毎日水やりをしたり、日のあたる場所に移動させ生長を見守った。どのような色、形、匂い、触り心地か五感を使って観察した後、スケッチを行った。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 7月～8月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>ヒミツの種プロジェクト(ヒマワリの開花)</p> <p>・テーマ…「ヒマワリの観察、お世話」</p> <p>ヒミツの種からヒマワリの花が咲いた。太陽と共に花の向きが変わることに気づいた子どもたちは、朝、昼、夕と時間を変えて観察を行った。また、子どもの背丈よりも伸びたヒマワリ場畑で迷路を楽しんだ。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 9月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>ヒミツの種プロジェクト(ヒマワリの種の収穫)</p> <p>・テーマ…「種は何粒あるだろう？」</p> <p>ヒマワリの花が枯れた後、種を乾燥させ、種の収穫を行った。1つのヒマワリから何粒の種が取れるか数えると、637粒あった。637粒数えることで、数字に触れることや、数の概念を体験して知った。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 4月～ 令和 7年 3月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>レイズドベッドでの野菜栽培</p> <p>レイズドベッドで1年を通して野菜作りを行った。春は、トマト、ナス、キュウリ、バジル、イチゴを植え、秋は、大根、人参を植えた。土づくりから子どもたちが調べて行い、冬野菜では土にかぶせるマルチの役割を調べたり、自分たちでゴミ袋で作って設置した。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 4月～ 令和 7年 3月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>レイズドベッドで収穫した野菜の試食</p> <p>レイズドベッドで育てた野菜は、収穫してすぐに味わった。瑞々しさや味の濃さが違い、野菜が苦手な子もよく食べていた。トマトとバジルを組み合わせると一緒に食べたり、キュウリとナスの塩もみを作ったりと、子どもたちが思い付いたすぐにできる調理法で新鮮なうちに食べた。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 10月 ～ 令和 6年 11月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>表現遊び</p> <p>ビオトープづくりを通して経験したことを、歌や劇にして、表現活動としても取り組んだ。生き物の動きの特徴や生き物の好む住処など、子どもたちが生き物の立場になって感じたことを、自分の得意なことで表現することを楽しんだ。(歌、踊り、劇、絵画、工作など)</p>	

3 取組概要	<p>(取組日) 令和 6年 11月12日 ~ 13日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>にこにこ会 子どもたちのビオトープづくりという日常が、劇遊びや劇発表会(にこにこ会)の行事につながった。保護者を招いて、2日間の発表会を行った。内容やセリフは子どもがすべて考え、感じたものや知ったことを言葉や歌や体の動きで表現するにこにこ会を2日間行った。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 6月 26日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>畑の学校第1回 ・テーマ…「ジャガイモの収穫」 ・場所…清水農園 葛飾区西水元で有機野菜を栽培する清水農園に行き、清水さん夫婦と交流した。畑の紹介や育てている野菜の紹介をしてもらい、ジャガイモの収穫を行った。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 9月 18日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>畑の学校第2回 ・テーマ…「大根の種まき」 ・場所…清水農園 清水農園の畑に行き、大根の種まきを行った。清水さんが事前に作ってくれた畝に、ビール瓶で大根の種を植える穴を開け、そこに4粒の種を植えた。種がうまく育たないものもあるため、4粒植えて間引くことも教えてもらった。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 11月 1日 月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>畑の学校第3回 ・テーマ…「間引いた大根の観察」 ・場所…認定こども園すなはら 清水さん夫婦が子どもたちが植えた大根の間引いたものを持ってきてくれた。間引いた大根も大きく育てていることを知った。また、間引いた大根は給食に取り入れて食べた。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 11月 29日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>畑の学校第4回 ・テーマ…「大根の収穫」 ・場所…清水農園 清水農園で9月に植えた大根の収穫をした。自分の腰まである大根の葉に驚く。子ども1人の力では抜くことが出来ず、友だちと協力して抜いた。</p>	
	<p>(取組日) 令和 7年 3月 12日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>畑の学校第4回 ・テーマ…「ジャガイモの種芋植え」 ・場所…清水農園 次年度畑の学校を行う年少児が、清水農園にジャガイモの種芋を植えに行った。種芋植えも目的の一つではあったが、子どもたちは清水さんに会えることを1番楽しみにしていた。</p>	

事業活動実績報告書

施設名	社会福祉法人砂原母の会 幼保連携型認定こども園すなはら
教育理念	「一人ひとりが主役になる」 ・自然の中で全身を使い五感を育む ・赤ちゃんからお年寄りまで関わり合う生活 ・時間を忘れて遊ぶ ・ほんものの食事
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	園庭に昆虫や生き物をよびこむための、ビオトープづくりとグリーンコーナーづくり
2 実施期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和 7年 3月 31日

3 取組概要	(取組日) 令和 6年 4月 ~ 令和 6年 9月	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		ビオトープ池の観察 ビオトープ池の観察を続ける。気になる生き物や植物をiPadで撮影したり、電子顕微鏡で観察した。また気になる事象があると、子どもたちは寄り合い(話し合いの場)を開き、自分の考えを話したり仮説を立てて考えた。ハナアブの幼虫の観察が子どもたちに人気で、大きくなると定規を使ってサイズを測り成長を見守った。	
	(取組日) 令和 6年 10月 ~ 令和 7年 3月	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		ビオトープ池の改良 生き物調査や自然遊びワークショップで、虫が棲みついたためには隠れ家や様々な素材の自然物が必要だと知った子どもたちは、薪を割って新たな虫の住処を作った。薪の裂け目や木の節にはハサミムシなどの土の上で暮らす虫が棲みついた。子どもたちは木や薪の位置を何度も変え、改良を続けている。	
	(取組日) 令和 6年 7月 ~ 9月	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	地域の池の観察 散歩先の西沼公園には人口の池がある。そこにはアメンボやカダヤシやアメリカザリガニが生息している。散歩中に池の観察をしたり、ザリガニ釣りを楽しんだ。釣ったザリガニを園庭ビオトープ池に放すことを考えていたが、園に戻って調べると外来種だということが分かり、他の生き物を食べてしまうことが分かったため、タライで飼うことにした。		
	(取組日) 令和 6年 12月 12日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	竹取り ビオトープづくりをする中で、子どもたちは森や林の他に竹藪というものがあることを知る。竹に興味を持った子どもたちは、木に虫が集まるように、竹にも集まる虫がいるのではないかと考えた。そこで、職員が竹藪に行き竹を取ってきて、生き物のすみかづくりに繋げた。		

3 取組概要

<p>(取組日) 令和 7年 1月～ 令和 7年 2月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>竹灯笼づくり 電動ドリルを使って竹に虫が入る入口の穴を開け、虫の住処を作った。また、竹に穴を開ける活動から、竹灯笼づくりが始まる。竹灯笼は人間が鑑賞するものだが、子どもたちは竹灯笼の光に集まる夜の虫が現れるのではないかと考えた。</p>	
<p>(取組日) 令和 7年 2月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>親子で竹灯笼づくり 竹灯笼づくりは、保護者も誘い親子で行った。子どもの描いたイラストをもとに、穴を開けて竹灯笼を作った。子どもが夢中になる以上に、保護者も夢中になって楽しんでいった。</p>	
<p>(取組日) 通年</p>	
<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>月と竹あかりの会 完成した竹灯笼を園庭に飾り、鑑賞会を実施。虫が集まることを期待した子どもたちだったが、残念ながら虫は来なかった。夏場は光に虫が集まるが、冬は集まらないことを知った。虫は集まらなかったが、ビオトープづくりをしている園庭にきれいな明かりがとまり、人が竹で楽しむことができた。</p>	
<p>(取組日) 令和 7年 3月</p>	
<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>雑草山づくりワークショップ 雑草山に黒土を追加するワークショップを行った。職人さんがトラックから土を下ろす作業を見学したり、土をならす作業を一緒に行った。道具の名前や使い方を教えてもらい、働く大人の背中を見ながら将来に期待を持ったり、自然やものづくりに関わる仕事の素晴らしさも感じる事ができた。</p>	
<p>(取組日) 通年</p>	
<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>薬通信(子どもが作成) 保育教諭がスマートフォンで撮影した写真や、子どもがiPadで撮影した写真を使って、子どもたちが薬新聞(壁新聞)を作っている。</p>	
<p>(取組日) 通年</p>	
<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>今日のニュートン(保育教諭が作成) 子どもたちの気づきや活動を『今日のニュートン』という形で、発信している。(園内に掲示、ホームページに掲載)</p>	

効果検証報告書

施設名	社会福祉法人砂原母の会 幼保連携型認定こども園すなはら	
教育理念	「一人ひとりが主役になる」・自然の中で全身を使い五感を育む・時間を忘れて遊ぶ ・赤ちゃんからお年寄りまで関わり合う生活・ほんものの食事	
事業の区分(5領域)	健康・人間関係・環境・言葉・表現	
1 事業名	園庭に昆虫や生き物をよびこむための、ビオトープづくりとグリーンコーナーづくり	
2 事業概要	園庭に子どもたちと一緒にビオトープ池と菜園をつくり、自然を活用した幼児教育を実施する。	
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・「自然遊びワーク」…生態計画研究所 ・「園庭生き物調査」「むしむしクラブ」… NPO法人水元ネイチャークラブプロジェクト 中島 幸一 ・「畑の指導」…清水農園 ・「黒土整地ワーク」…(株)マルオ
	事業後	3についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 専門家や現場の人と直接触れ合うことで、子どもだけでなく職員も学びながら体験することができた。 地域の人や資源を知り、関わり、実際に触れ合うことができた。 生き物とのかかわり方や道具の使い方を知り、体験することができた。
計画時	4 事業のねらい	・身近な自然の中で生き物や植物との不思議な出会いを通して、健康で心豊かな人間が育つ。また、日常の遊びの中でビオトープを活用することで、生き物の命の尊さやその暮らしについての理解が深まり、思考力の芽生えや道徳性が育まれる。 ・地域の公園や自然を活用しながら園庭のビオトープづくりを行うことで、自分の園や地域に愛着を持ち、自分が住む町の自然を大切にしようとする。また、ビオトープづくりを通して自然と人の共生や生物多様性についての意が高まり、教育保育に効果的に子どもに還元することができる。 ・ビオトープづくりをこども園、保護者、地域住民が一緒に行うことにより、お互いに理解が深まり、地域で子どもたちを育ててもらえるようになる。 ・グリーンコーナーの整備や栽培を通して、楽しみ、失敗、解決を繰り返しながら、食に関心を持つと共に、畑の始まりから終わりまでを体験することができる。 ・子ども一人ひとりの自発的な自然との関りは、豊かな感性や表現から劇遊びや製作活動にも発展していく。
	事業後	4についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 今まで園庭になかったビオトープが園庭という身近な環境にあることで、日々どのような変化が見られているのか、どんな生き物が集まってきているのか興味をもって観察するようになった。また虫たちが好きな花について知り、一緒に植えて育てるという体験から、協力して一つのことに取り組むということができた。グリーンコーナーの野菜作りでは、幼児が毎日関心を示す姿に、未満児にも同じ影響が見られた。
計画時	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・「自然遊びワーク」 年6回 ・「園庭生き物調査」 月1～2回 ・「むしむしクラブ」 年12回 ・「畑の指導」 年4回 ・「にこにこ会」 2回 ・「園庭で食の活動」 日常 ・「黒土整地ワーク」 1回
	事業後	5についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 活動の取り組みが定期的に行われることで、子どもたちの興味が継続し、つながりをもって行うことができた。1年(日々の活動)を通して自然・生き物、食、表現といった様々な活動があり、その経験を踏まえて、「にこにこ会」という子どもたちが学んできたことを表現して発表することができた。

計画時	6 環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ピオトープやグリーンコーナーを完成させることが目的にならないよう、「なぜ作るのか」「活動をどのように教育保育に活かすのか」「子どもに身につけてほしい資質能力は何か」を、職員間で共有し共通認識を持つ。 ・自然遊びワークショップは、地域資源を活用し、園内と近隣の公園で行う。講師が午前中の主活動から昼食まで子どもたちと関わり、食事を子どもとともにすることで、活動を振り返ったり疑問などを深められるようにする。午後は午前中の主活動を題材に、園内研修を実施。 ・園庭に作ったピオトープ池を拡大し、鳥類などの新たな生き物の住処も作る。子どもたちが作ったピオトープが維持管理できるよう、植栽や水の整備も行う。
	事業後	<p>6についての効果・検証</p> <p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>子どもたちの振り返りだけでなく、職員の研修や疑問や知識を共有する場があることで、園内で取り組んで切ることを客観的に理解することができ、どのように取り組めばより良い保育環境ができるか考えるきっかけとなった。職員は、子どもたちを巻き込んでピオトープやレイズドベッドを日々観察し、なぜ変化したのか子どもと一緒に考える場を作った。</p>
事業後	7 期待される効果 児童の姿	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然の中で生き物や植物との不思議な出会いを通して、健康で心豊かな人間が育つ。また、日常の遊びの中でピオトープを活用することで、生き物の命の尊さやその暮らしについての理解が深まり、思考力の芽生えや道徳性が育まれる。 ・子どもたちが自分で考え試行錯誤しながら生き物を呼び込む園庭を作ることで、問や仮説を立てることを日常的に行い、自分から学ぶ姿勢が育まれる。 ・ピオトープ作りに関わったことで自分の園や地域に愛着を持ち、地域の自然を大切にしようとする。また、ピオトープづくりを通して自然と人の共生や生物多様性についての意識が高まる。 ・ピオトープづくりをこども園、保護者、地域住民が一緒に行うことにより、お互いに理解が深まり、地域で子どもたちを育ててもらえるようになる。 ・ワークショップや農業指導などの様々な活動を葛飾区内の方に行っていただくことで地域が活性され、子どもたちは安心して地域の中で育つことができ、自分の住む町も好きになる。 ・様々な表現活動を通してインプットしたことを、アウトプットする表現の場を用意することで、子ども一人ひとりが主役になる。
	事業後	<p>7についての効果・検証</p> <p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>日常のなかで感じた疑問について保育教諭と一緒に考え、調べたり、知っている人に聞いてみようという姿が見られた。またどのような環境にしたら生き物が集まるのか、生き物の視点に立って考え、試行錯誤するようになった。虫について知る場から、虫や生き物がどうしたら住むことができるのかという環境に視点が広がり、つながりをもって保育することができた。</p>
事業後	8 効果検証 総括	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <p>自然・生き物・食への興味が広がり、園庭の環境がより観察し遊べる場となった。自然や生き物に対しては、自然をむやみに壊してはいけないということ、生き物が住むためには水や土といった住処、ご飯が必要ということを考えてから捕まえたり、場合によっては元の場所に返してあげたりと思いやりの気持ちをもって接することができた。食では、食べられなかった野菜も水をあげて育てたり、収穫したりすることで“食べてみよう”という気持ちが芽生えていた。</p> <p>自分の知ったこと、やっていることをほかの友だちに発表することが増えた。その中で同じことに興味のある子どもたちが集まり、一緒に調べたり、育てたりしようという姿が見られた。子どもたちの日々の取り組みを保護者にも知ってもらえるように写真や絵、新聞、表現遊びといった方法で掲示をした。</p>